

# 宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成26年7月～9月期

## 目 次

1. 県下産業全体の景況 .....	2
(1) 主要景況項目のあらまし .....	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし .....	3
(3) 今後の見通しについて .....	4
2. 県下産業別の景況 .....	5
(1) 製造業の動向 .....	5
(2) 建設業の動向 .....	8
(3) 小売業の動向 .....	11
(4) サービス業の動向 .....	14

平成26年10月

宮城県商工会連合会

# 中小企業景況調査報告書

平成 26 年 7 月～9 月期

## [調査要領]

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区  
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、利府松島、加美、  
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 150 企業

### 2. 調査対象期間

平成 26 年 7 月～9 月期を対象として、調査時点は平成 26 年 9 月 1 日とした。

### 3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

### 4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	33
建 設 業	25
小 売 業	43
サービス業	49
合 計	150

### 5. そ の 他

本報告書中のDIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

## 1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成 26 年 7 月～9 月期)の調査において、産業全体の業況D I (前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より $\Delta 0.9$ と若干悪化し $\Delta 33.1$ (前期 $\Delta 32.2$ )となった。産業別にみると、製造業は $\Delta 6.0$ (前期 $\Delta 21.9$ )と15.9ポイント改善したが、建設業が $\Delta 8.0$ (前期 $\Delta 4.0$ )と $\Delta 4.0$ ポイントの悪化、小売業では $\Delta 48.7$ (前期 $\Delta 43.9$ )と $\Delta 4.8$ ポイント悪化、サービス業では $\Delta 51.1$ (前期 $\Delta 43.7$ )と $\Delta 7.4$ ポイント悪化した。

### (1) 主要景況項目のあらまし

#### ① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体としては前期(H26年4月～6月期)から今期は改善傾向になっている。産業別にみると、製造業は6.1(前期 $\Delta 24.3$ )で30.4ポイントの改善、建設業は0.0(前期 $\Delta 12.0$ )で12.0ポイント改善し、小売業でも $\Delta 39.4$ (前期 $\Delta 46.5$ )と7.1ポイント改善したが、サービス業では $\Delta 32.7$ (前期 $\Delta 20.5$ )と $\Delta 12.2$ ポイント悪化した。

#### ② 採算の状況

採算D Iについては、全体として今期は前期に比べて改善した。産業別にみると製造業で $\Delta 15.7$ (前期 $\Delta 36.4$ )と20.7ポイント改善、建設業は $\Delta 12.0$ (前期 $\Delta 20.0$ )で8.0ポイント改善し、小売業は $\Delta 44.1$ (前期 $\Delta 58.1$ )で14.0ポイント改善、サービス業でも $\Delta 53.1$ (前期 $\Delta 55.2$ )となり2.1ポイント改善した。

#### ③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では24.2%で前期比9.0ポイント増加したが、建設業では20.0%で前期比 $\Delta 12.0$ ポイント減少し、小売業でも7.0%と前期比 $\Delta 5.2$ ポイント減少した。サービス業では14.3%で前期比1.5ポイント増加した。

## (2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

### ① 売上額（完成工事額）

9月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断D Iは製造業が2ポイント悪化のマイナス1、非製造業は2ポイント悪化のゼロだった。先行きは製造業で小幅改善、非製造業では小幅悪化を見込む」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、製造業がプラスに転じ、建設業が0になる一方、小売業、サービス業はマイナス値にとどまった。前期との比較では製造業、建設業、小売業で改善、サービス業は悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額D I比較では、製造業、建設業では全国、東北を上回る一方、小売業は全国並み、東北以下、サービス業では全国、東北を下回った。

表－1 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 3.6	△ 7.4	△ 9.4	△ 9.3	△ 24.3	6.1
建 設 業	0.4	△ 6.6	△ 7.6	△ 6.4	△ 12.0	0.0
小 売 業	△ 37.1	△ 39.9	△ 43.5	△ 36.3	△ 46.5	△ 39.4
サービス業	△ 20.2	△ 24.4	△ 22.0	△ 24.8	△ 20.5	△ 32.7

### ② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であるが、前期との比較では全業種で改善した。今期D Iの比較で、製造業、建設業で宮城は全国と東北を上回る一方、小売業では全国、東北と同程度、サービス業では全国と東北を下回った。

表－2 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 17.4	△ 19.6	△ 32.5	△ 29.8	△ 36.4	△ 15.7
建 設 業	△ 13.1	△ 19.9	△ 13.9	△ 19.6	△ 20.0	△ 12.0
小 売 業	△ 40.3	△ 43.3	△ 46.8	△ 44.2	△ 58.1	△ 44.1
サービス業	△ 29.5	△ 31.9	△ 35.4	△ 34.6	△ 55.2	△ 53.1

### (3) 今後の見通しについて

#### ① 県下産業全般の主要項目来期見通し

売上額（完成工事額）来期見通しD I（26年10月～12月期）では、今期状況D Iとの比較で小売業で2.1ポイントの改善見通しの方、製造業で△12.5ポイントの悪化、建設業で△16.6ポイント悪化、サービス業では△6.0ポイントの悪化見通しとなった。採算来期見通しD Iでも、同じく今期状況D Iとの比較で小売業で4.6ポイントの改善見通しの方、製造業で△8.5ポイントの悪化、建設業で△0.5ポイントとほぼ横ばい、サービス業では△4.0ポイントの悪化見通しとなった。

#### ② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、売上額は全国、宮城共に製造業、建設業で悪化見通し、小売業では共に若干の改善であった。サービス業では全国でほぼ横ばいの見通しである一方、宮城で悪化見通しであった。採算は、全国では小売業以外はほぼ横ばいで、宮城では小売業のみが改善見通しであった。来期見通しD Iでは、製造業の売上D I、建設業の採算D Iでは全国を上回ったが、これら以外では概ね全国並みか全国以下であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 7.4	△ 12.2	6.1	△ 6.4
建 設 業	△ 6.6	△ 14.2	0.0	△ 16.6
小 売 業	△ 39.9	△ 38.5	△ 39.4	△ 37.3
サービス業	△ 24.4	△ 24.1	△ 32.7	△ 38.7

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 19.6	△ 20.2	△ 15.7	△ 24.2
建 設 業	△ 19.9	△ 20.8	△ 12.0	△ 12.5
小 売 業	△ 43.3	△ 40.0	△ 44.1	△ 39.5
サービス業	△ 31.9	△ 29.2	△ 53.1	△ 57.1

## 2. 県下産業別の景況

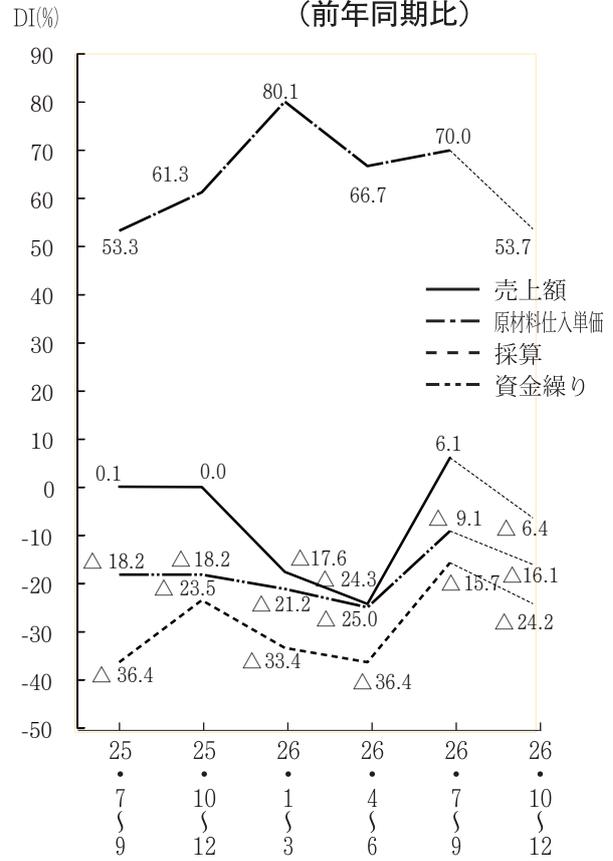
### (1) 製造業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期6.1（前期△24.3）となり30.4ポイント改善し、採算D Iは今期△15.7（前期△36.4）で20.7ポイントの改善、資金繰りD Iも今期△9.1（前期△25.0）で15.9ポイント改善した。

原材料仕入単価は今期70.0（前期66.7）と3.3ポイント上昇したが、来期は改善の見通しであり原材料の高騰状況は相対的には緩和の方向にある。

図1-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



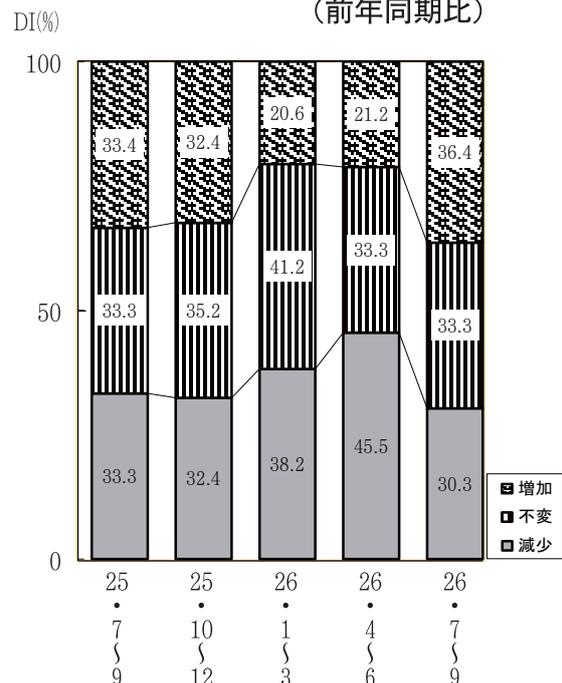
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の36.4%（前期21.2%）と15.2ポイント増加し、「減少」と回答した企業は30.3%（前期45.5%）と△15.2ポイント減少した。

結果として売上（加工）額D Iは6.1（前期△24.3）となり前期比30.4ポイント増と改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況  
(前年同期比)

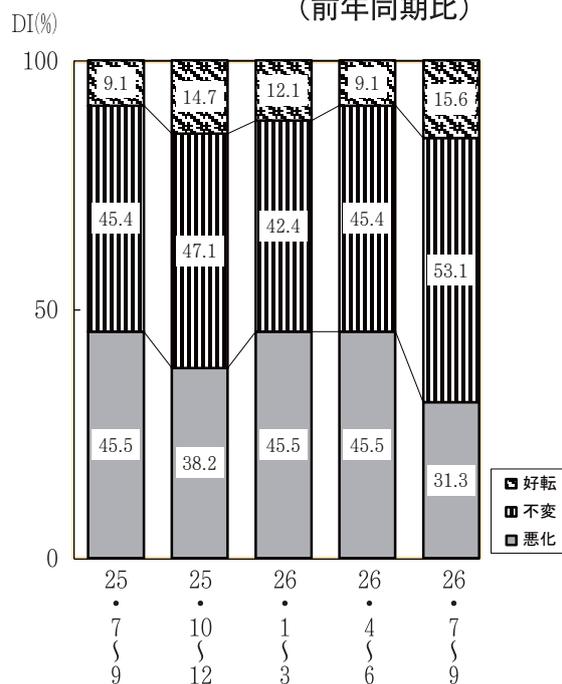


### (b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の15.6%(前期9.1%)で6.5ポイント増加し、「悪化」と回答した企業は31.3%(前期45.5%)で△14.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは△15.7(前期△36.4)となり前期比20.7ポイント改善した。

図1-3 採算の状況  
(前年同期比)



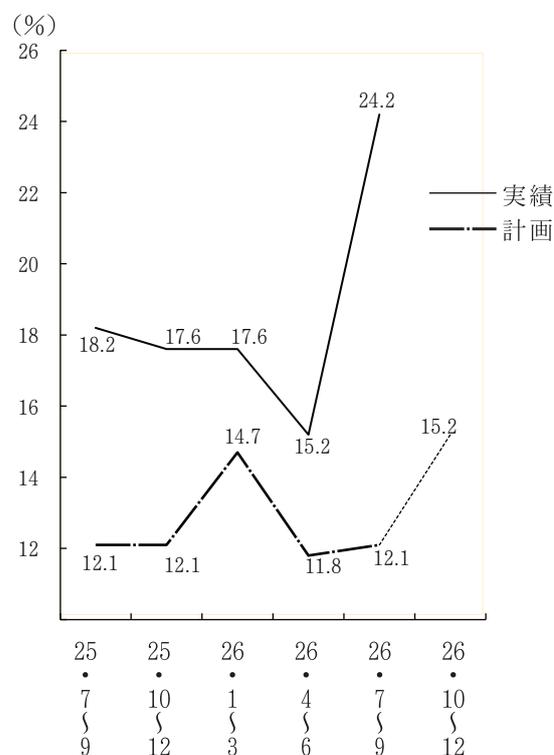
### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の24.2%(前期15.2%)で9.0ポイント増加した。

その設備内容は生産設備、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の15.2%で、その設備内容は土地、工場建物、生産設備、付帯施設、OA機器、福利厚生施設となっている。

図1-4 設備投資の状況

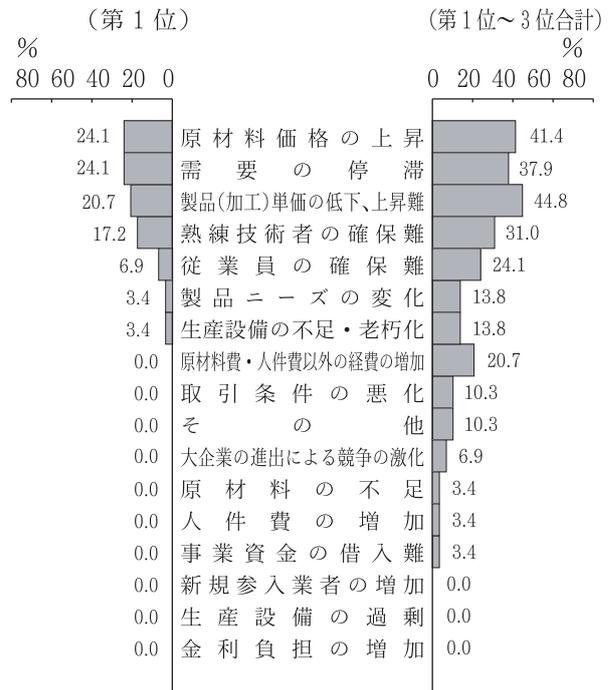


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「原材料価格の上昇」、「需要の停滞」が共に24.1%で、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」が20.7%であった。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「製品(加工)単価の低下、上昇難」で44.8%(複数回答計、以下同じ)、次いで「原材料価格の上昇」が41.4%、「需要の停滞」が37.9%と続いた。

図1-5 経営上の問題点



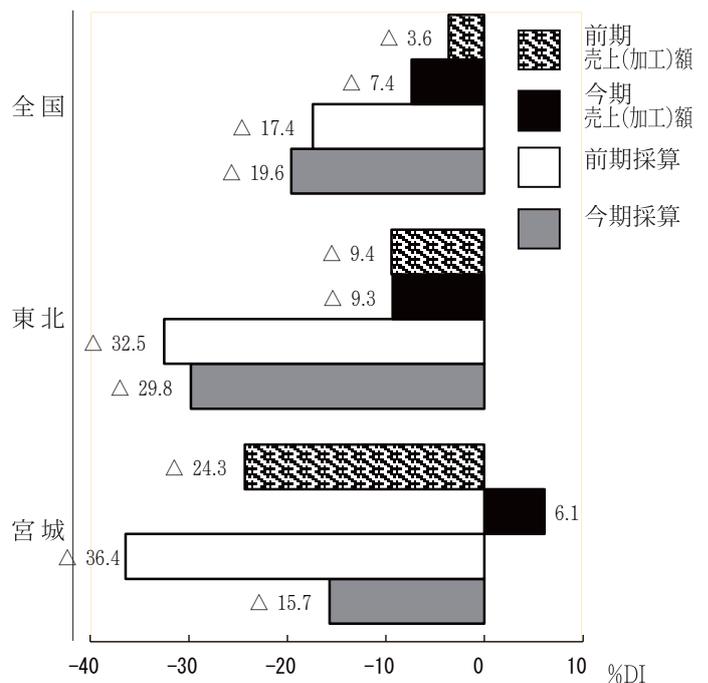
### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額DI、採算DI共に、全国では若干の悪化、東北では若干の改善、宮城では大幅な改善となった。

また今期のDIでは売上、採算ともに宮城>全国>東北の順序で、宮城が最も上位のDI値となっている。

本県回答事業者からは「新製品立ち上げにより売上・利益増加、今後も新製品に期待」(加工製品製造業)、「国内工場のハイレベルな品質と管理体制が見直されている。国内の生産工場が廃業・倒産で減少したこともあり引き合いは活発(縫製業)」とのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)



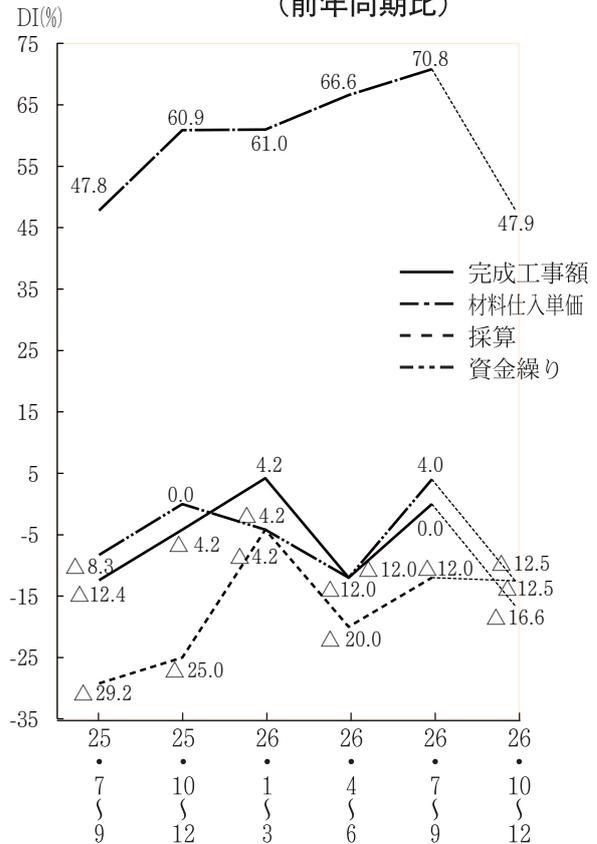
## (2) 建設業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期0.0（前期△12.0）と12.0ポイント改善し、採算D Iは今期△12.0（前期△20.0）で8.0ポイント改善、資金繰りD Iも今期4.0（前期△12.0）と16.0ポイント改善した。

材料仕入単価D Iは今期70.8（前期66.6）と4.2ポイント上昇した。

図2-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



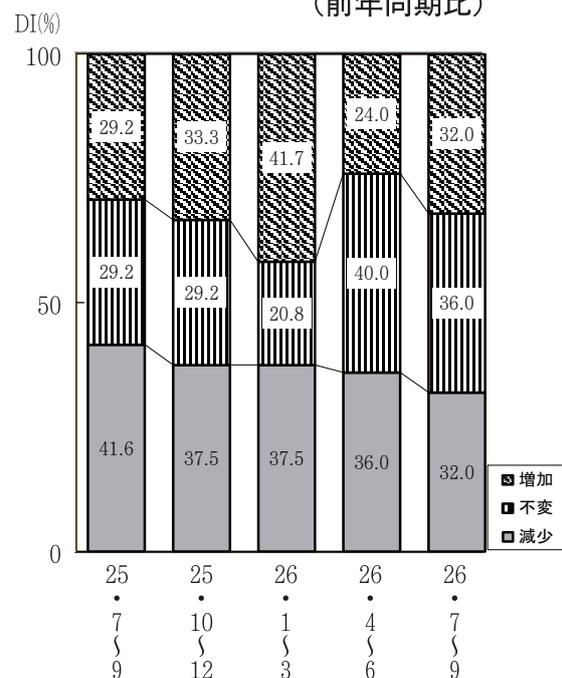
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の32.0%（前期24.0%）で8.0ポイント増加し、「減少」と回答した企業は32.0%（前期36.0%）と△4.0ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは0.0（前期△12.0）と12.0ポイント改善した。

図2-2 完成工事額の状況  
(前年同期比)

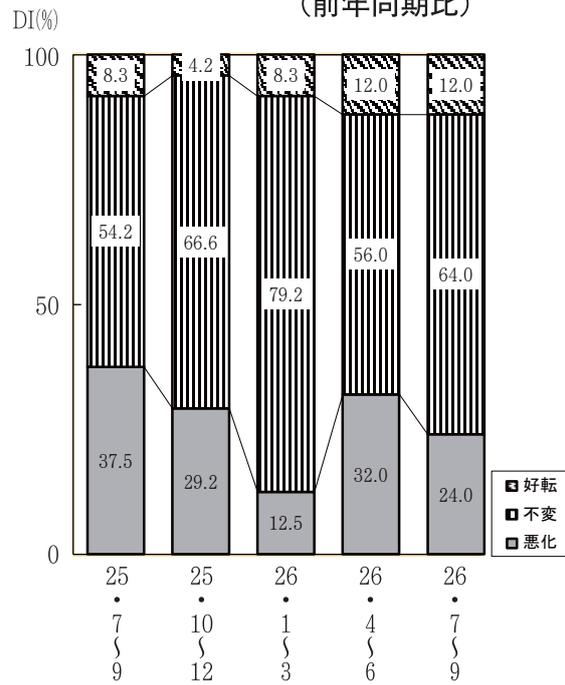


### (b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の12.0%（前期12.0%）であり横ばい、「悪化」と回答した企業は全体の24.0%（前期32.0%）で△8.0ポイント減少した。

その結果、採算DIは△12.0（前期△20.0）で8.0ポイント改善した。

図2-3 採算の状況  
(前年同期比)



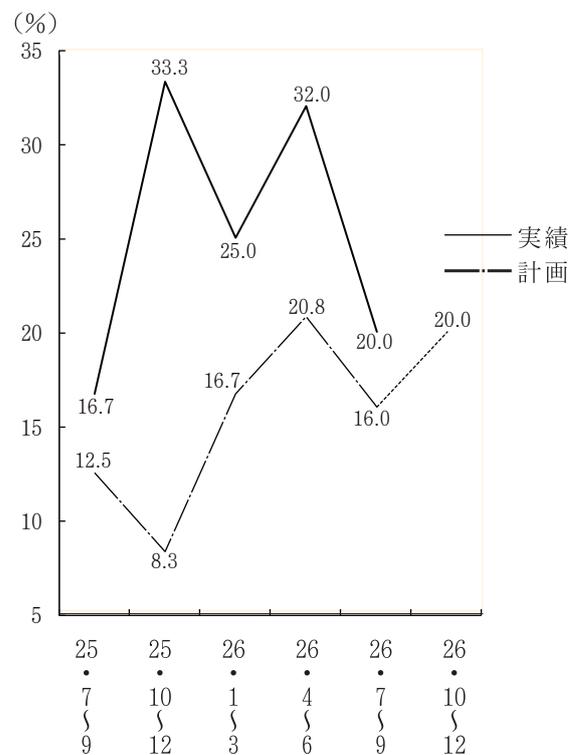
### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の20.0%（前期32.0%）で△12.0ポイント減少した。

その設備内容は建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の20.0%で、その設備内容は土地、建物、建設機械、車両・運搬具、付帯施設、福利厚生施設、その他となっている。

図2-4 設備投資の状況

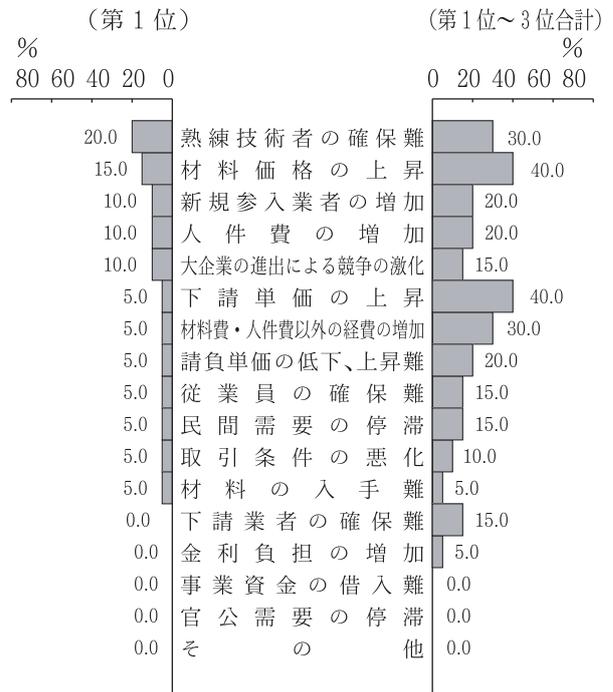


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「熟練技術者の確保難」(20.0%)で、次いで「材料価格の上昇」(15.0%)、更に「新規参入業者の増加」、「人件費の増加」、「大企業の進出による競争の激化」が同率10.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「材料価格の上昇」、「下請単価の上昇」が同率40.0%(複数回答計、以下同じ)で最上位、次いで「熟練技術者の確保難」、「材料費・人件費以外の経費の増加」が同率30.0%であった。

図2-5 経営上の問題点



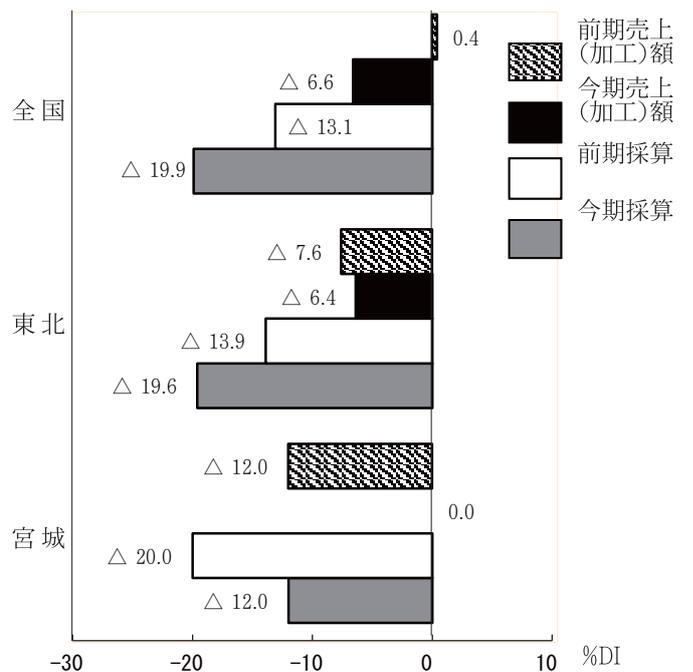
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では宮城は売上額DI、採算DI共に改善し、全国では共に悪化した。東北では売り上げは若干改善し、採算は悪化であった。

今期DIでは、売上、採算共に宮城>東北>全国の順で、宮城は前期からの改善度及び今期DIで、共に最も上位であった。

本県回答事業所からは「受注安定が続いているが、この先確実に減り始める住宅建設以外にも目を向けた準備が必要」、「消費増税による落ち込みがここに来て顕著に表れ始めている」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



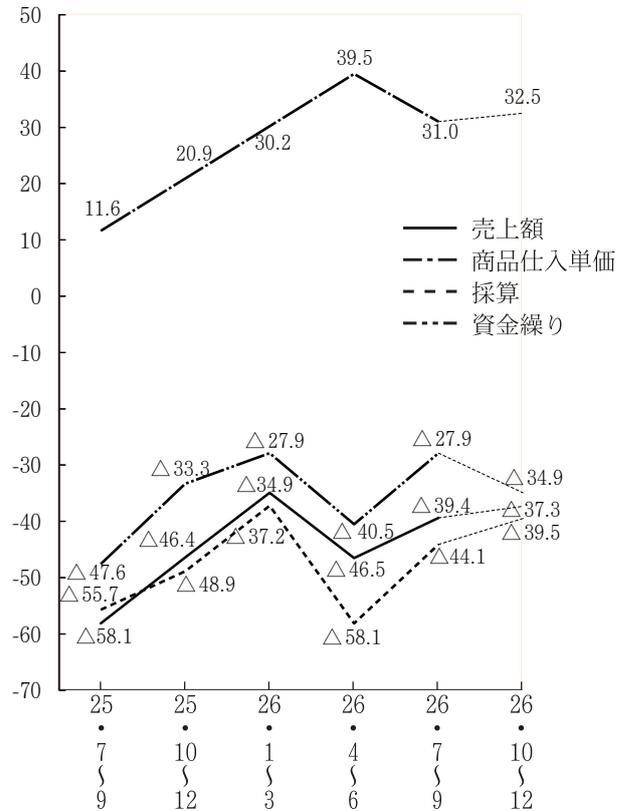
### (3) 小売業の動向

#### ① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△39.4（前期△46.5）と7.1ポイント改善し、採算D Iは今期△44.1（前期△58.1）で14.0ポイント改善、資金繰りD Iも今期△27.9（前期△40.5）で12.6ポイント改善と、いずれも前期に比べ改善した。

商品仕入単価D Iは今期31.0（前期39.5）となり△8.5ポイント低下した。

図3-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



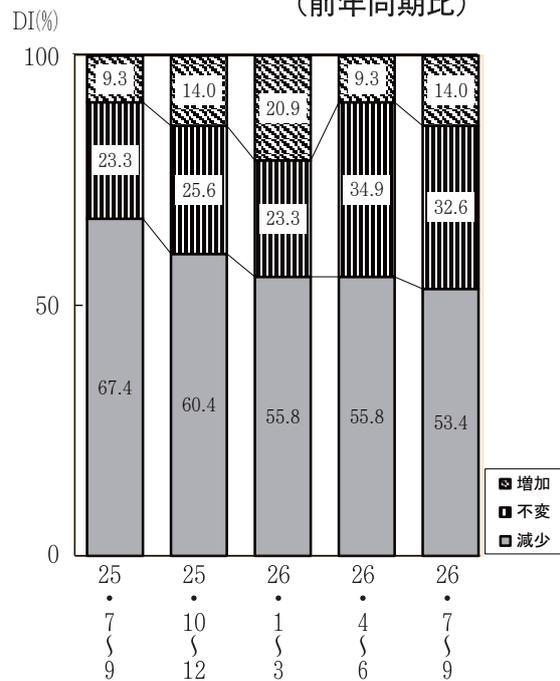
#### ② 主要景況項目別状況

##### (a) 売上額

「増加」と回答した企業は今期は全体の14.0%（前期9.3%）と4.7ポイント増加し、「減少」の回答は今期は全体の53.4%（前期55.8%）と△2.4ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△39.4（前期△46.5）と前期比7.1ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況  
(前年同期比)

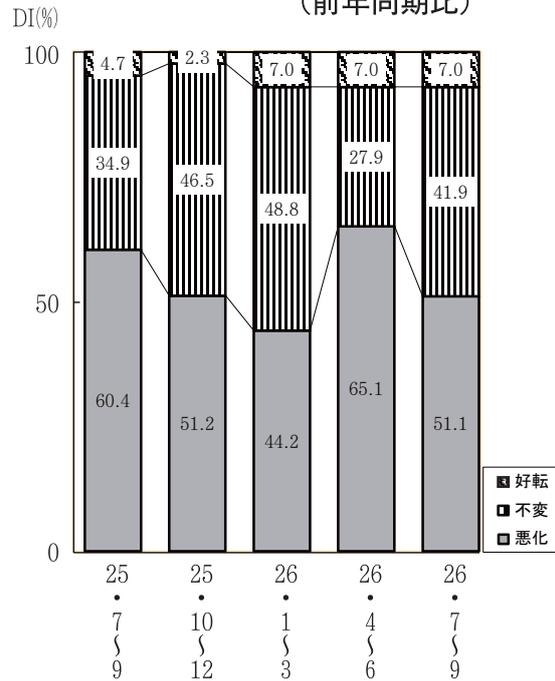


### (b) 採 算

「好転」と回答した企業は今期は全体の7.0%（前期7.0%）と横ばいで、「悪化」の回答は今期は全体の51.1%（前期65.1%）で△14.0ポイント減少した。

その結果、採算DIは、今期△44.1（前期△58.1）となり、前期比14.0ポイント改善した。

図3-3 採算の状況  
(前年同期比)



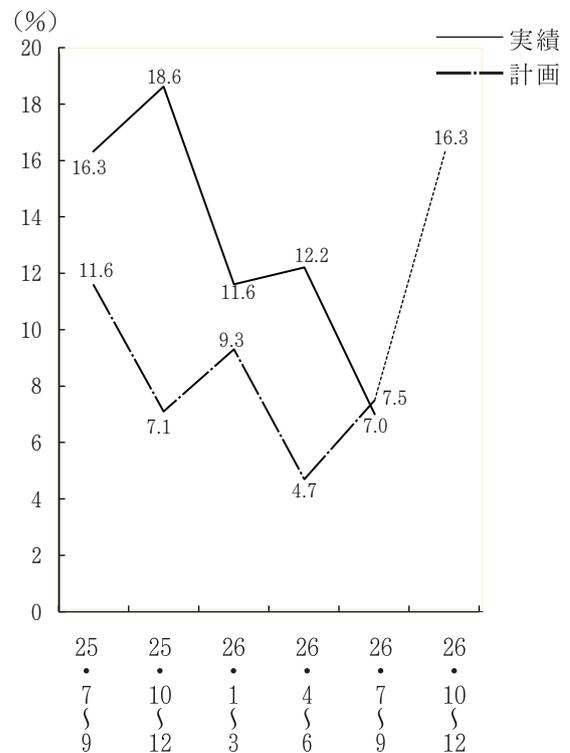
### (c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の7.0%（前期12.2%）で、△5.2ポイント減少した。

その設備内容は店舗、販売設備、車両・運搬具であった。

来期に設備計画している企業は16.3%で、その内容は店舗、販売設備、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他となっている。

図3-4 設備投資の状況

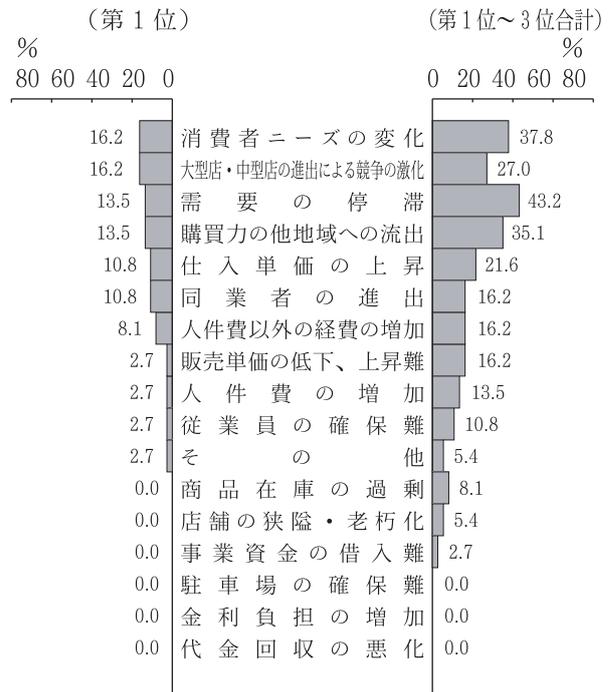


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「消費者ニーズの変化」、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が共に16.2%で、次いで「需要の停滞」、「購買力の他地域への流出」が同率(13.5%)で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」(43.2%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「消費者ニーズの変化」(37.8%)、「購買力の他地域への流出」(35.1%)が続いた。

図3-5 経営上の問題点

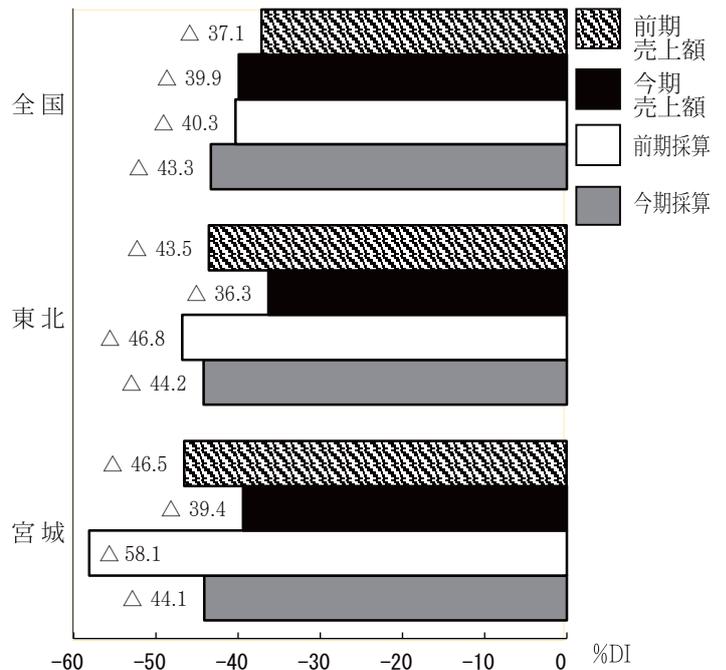


### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期の前期との比較では、売上D I、採算D I共に宮城、東北が改善方向であるのに対し、全国は若干の悪化方向であった。今期D Iでは宮城は売上、採算共にほぼ全国並みとなった。

本県回答事業所から「消費増税後の購買力の回復がみられない。販売単価に上乘せできず苦しい状況」(海産品販売)、「仕入単価が上昇しており採算が悪化」(電気店)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



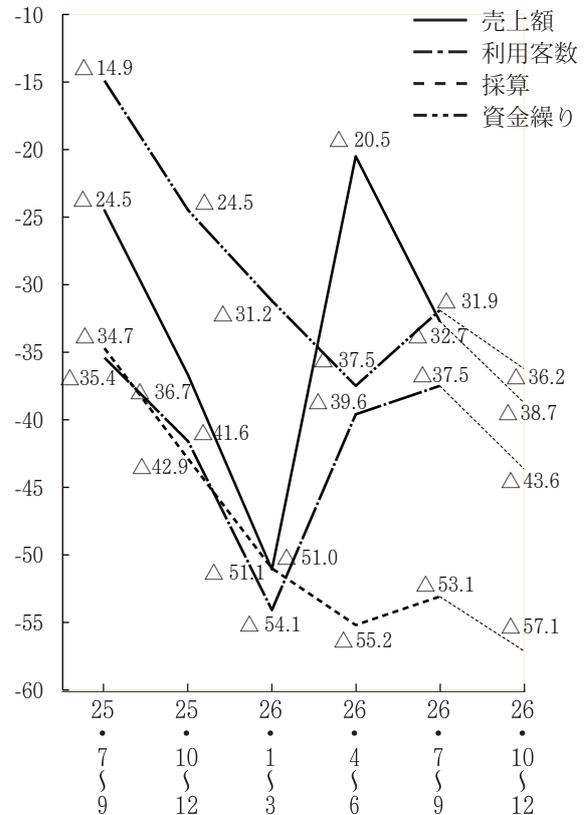
## (4) サービス業の動向

### ① 主要景況項目から見たあらし

売上(収入)額D Iは今期△32.7(前期△20.5)で△12.2ポイント悪化、採算D Iは今期△53.1(前期△55.2)で2.1ポイント改善、資金繰りD Iは今期△31.9(前期△37.5)と5.6ポイント改善した。

利用客数D Iは今期△37.5(前期△39.6)で2.1ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移  
(前年同期比)



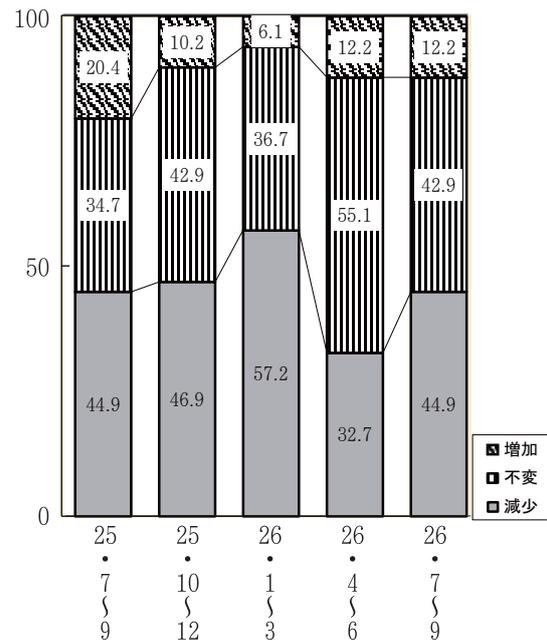
### ② 主要景況項目別状況

#### (a) 売上(収入)額

「増加」と回答した企業は今期は全体の12.2% (前期12.2%) で横ばい、「減少」の回答は今期44.9% (前期32.7%) で12.2ポイント増加した。

その結果、売上(収入)額D Iは今期△32.7(前期△20.5)で前期比△12.2ポイント悪化した。

図4-2 売上(収入)額の状況  
(前年同期比)

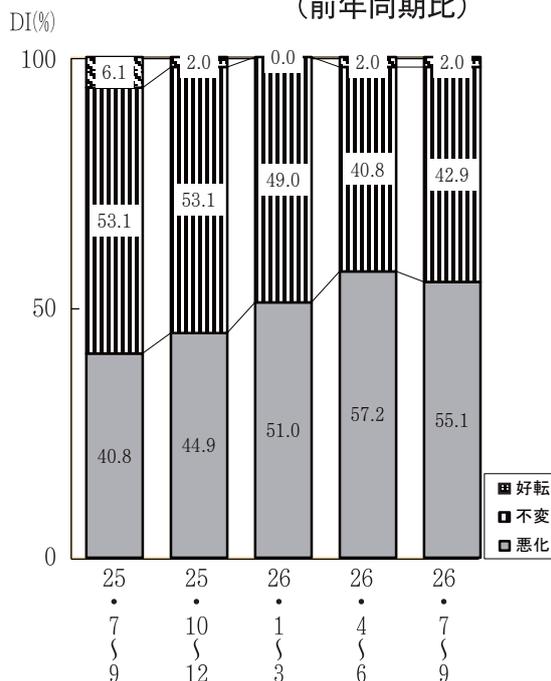


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は今期は全体の2.0%（前期2.0%）で前期比横ばい、「悪化」と回答した企業は今期55.1%（前期57.2%）と△2.1ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△53.1（前期△55.2）となり、前期比2.1ポイント改善した。

図4-3 採算の状況  
(前年同期比)



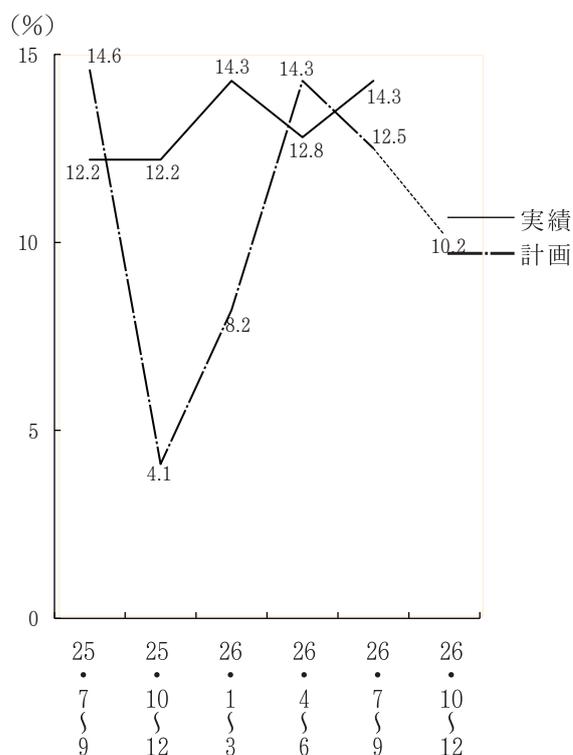
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、今期は全体の14.3%（前期12.8%）で1.5%増加した。

その設備内容は、建物、サービス、付帯施設、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は、10.2%であり、その内容は、建物、サービス、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

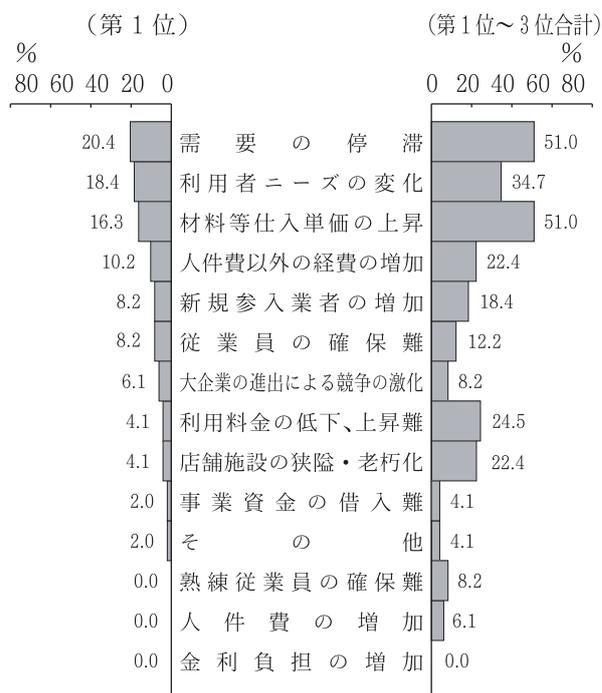


### (d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(20.4%)で、次いで「利用者ニーズの変化」(18.4%)、更に「材料等仕入単価の上昇」(16.3%)が続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「需要の停滞」、「材料等仕入単価の上昇」(同率51.0%(複数回答合計、以下同じ))が共に最上位で、次いで「利用者ニーズの変化」(34.7%)であった。

図4-5 経営上の問題点



### ③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期売上DIは、前期に比べて全国、東北、宮城いずれでも悪化し、特に宮城における悪化度が大であった。

採算DIでは、前期に比べ全国ではやや悪化方向である一方、東北、宮城においては若干の改善という結果であった。

本県回答事業所からは「新規参入業者が増え、客数が減っている。大手チェーン店には対抗措置が無理なので厳しい状況」(クリーニング店)のコメントが寄せられた。また「売上は年々下がっているが利用椅子等を刷新した。いまならぎりぎりやれるので」(理髪店)とのコメントもあった。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

